

八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価

目的

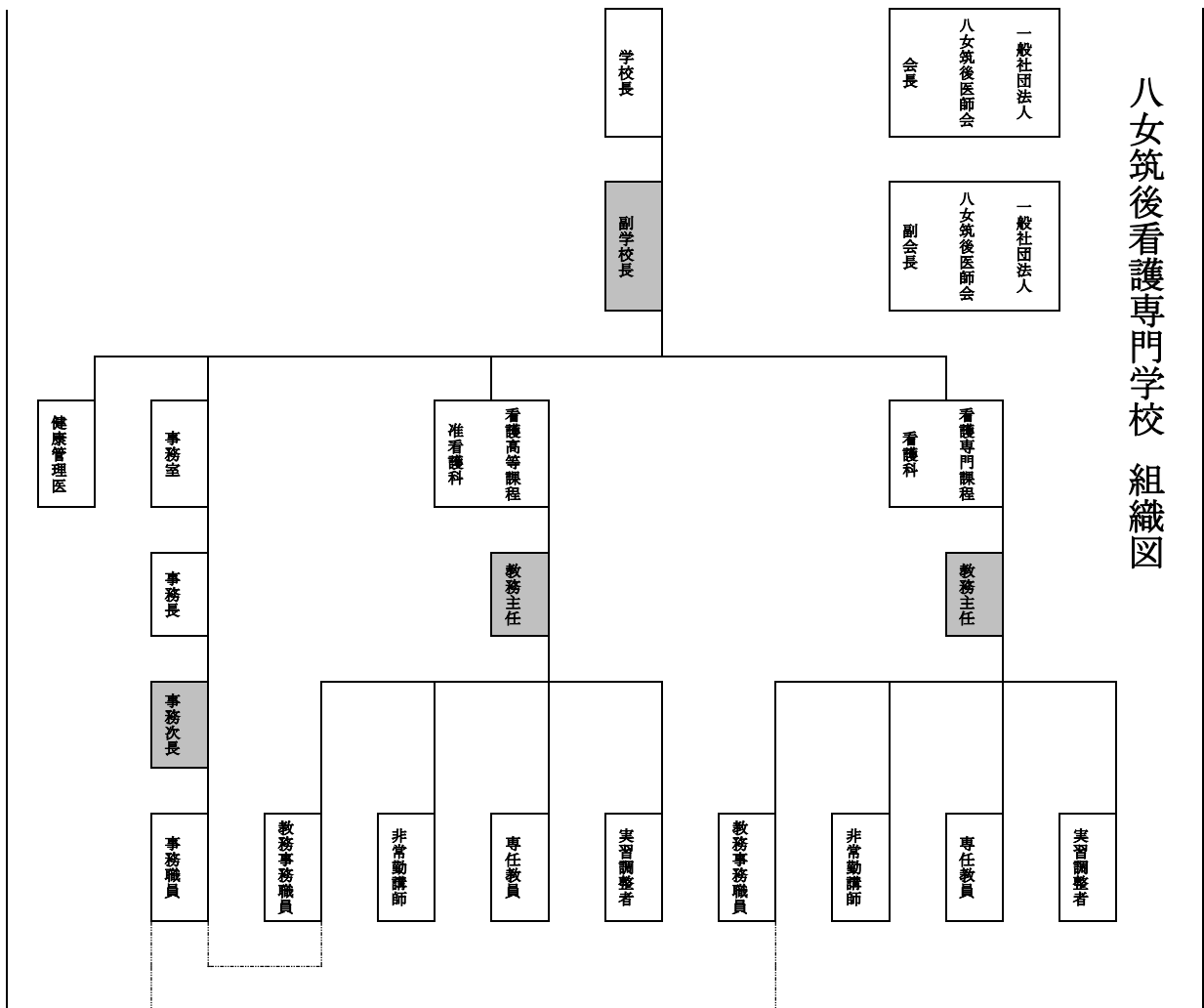
自己点検・自己評価は、看護師等養成所における教育評価の一環として位置づけられる。八女筑後看護専門学校では、教育活動やその他の運営状況について点検・評価を行うことにより、本校の強みと改善点を明らかにし、教育の質向上や健全な学校運営等を目指して組織的・継続的に取り組むことを目的とする。

方法

- ・厚生労働省の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参考に、本校の「学校評価表・ガイドライン」を作成し、毎年度、自己点検・自己評価を行う。
- ・全教職員が評価表に基づき評価を行い、その結果を「学校評価委員会」にて分析し、教職員全体へフィードバックする。
- ・評価結果に基づき次年度への重点課題を決め、検討を重ね改善に取り組んでいく。
- ・評価結果、重点課題を外部へ公表する。

学校評価委員会構成

構成員



平成26・27・28年度 自己点検自己評価結果 准看護科

<評価基準> 3:当てはまる

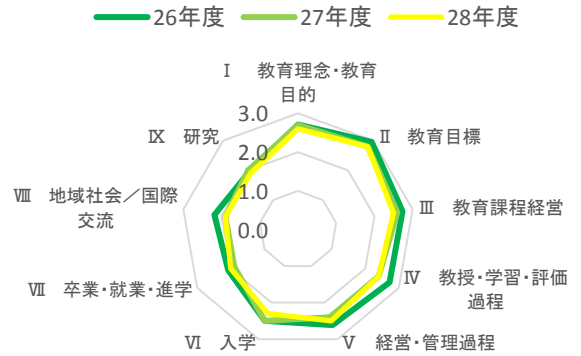
2:やや当てはまる

1:当てはまらない

26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
I 教育理念・教育目的	2.7	2.7	2.6
II 教育目標	3.0	2.8	2.8
III 教育課程経営	2.7	2.6	2.5
IV 教授・学習・評価過程	2.7	2.4	2.4
V 経営・管理過程	2.6	2.4	2.5
VI 入学	2.5	2.5	2.3
VII 卒業・就業・進学	2.1	1.9	2.0
VIII 地域社会／国際交流	2.2	1.9	1.9
IX 研究	2.0	2.0	1.9

准看護科 自己点検自己評価結果

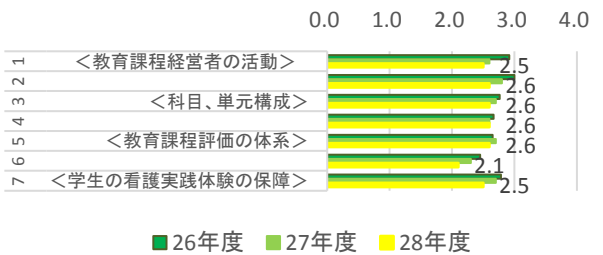


III 教育課程経営 26年度 27年度 28年度

Item	26年度	27年度	28年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.9	2.6	2.5
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	3.0	2.8	2.6
3 <科目、単元構成>	2.8	2.7	2.6
4 <教育計画>	2.7	2.6	2.6
5 <教育課程評価の体系>	2.7	2.7	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.5	2.3	2.1
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.8	2.7	2.5

平均 2.7 2.6 2.5

III 教育課程経営

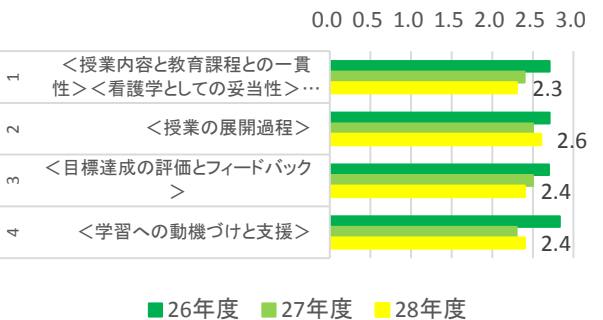


IV 教授・学習・評価過程 26年度 27年度 28年度

Item	26年度	27年度	28年度
1 <授業内容と教育課程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の連携と発展>	2.7	2.4	2.3
2 <授業の展開過程>	2.7	2.5	2.6
3 <目標達成の評価とフィードバック>	2.7	2.5	2.4
4 <学習への動機づけと支援>	2.8	2.3	2.4

平均 2.7 2.4 2.4

IV 教授・学習・評価過程

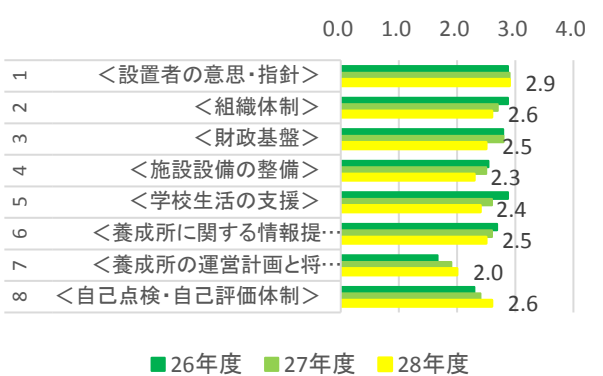


V 経営・管理過程 26年度 27年度 28年度

Item	26年度	27年度	28年度
1 <設置者の意思・指針>	2.9	2.9	2.9
2 <組織体制>	2.9	2.7	2.6
3 <財政基盤>	2.8	2.8	2.5
4 <施設設備の整備>	2.5	2.5	2.3
5 <学校生活の支援>	2.9	2.6	2.4
6 <養成所に関する情報提供>	2.7	2.6	2.5
7 <養成所の運営計画と将来構想>	1.7	1.9	2.0
8 <自己点検・自己評価体制>	2.3	2.4	2.6

平均 2.6 2.4 2.5

V 経営・管理過程

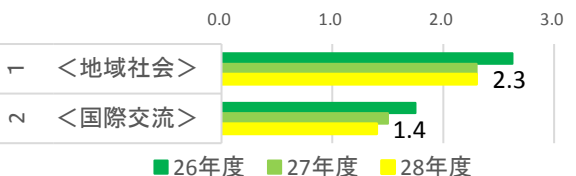


VIII 地域社会／国際交流 26年度 27年度 28年度

Item	26年度	27年度	28年度
1 <地域社会>	2.6	2.3	2.3
2 <国際交流>	1.8	1.5	1.4

平均 2.2 1.9 1.9

VIII 地域社会／国際交流



平成 28 年度の重点課題に対する評価 准看護科

課題 1 学生の授業評価を有効活用し、教材の工夫や教員間の連携を図り、学習意欲を引き出す授業（実習）を実施する。

28 年度から外部講師と専任教員の授業評価を実施した。29 年度も継続して行い、授業や実習に反映させていく。

課題 2 平成 27 年度作成した進度表を更に、教育効果を考えた科目の進度など、内容の見直しをする。

教育課程構造図と進度表を作成し、H28 年度生の学習要項に掲載し説明を行った。科目の進度については、外部講師との調整を行い、29 年度生から学習効果を考えた進度に一部変更することができた。

課題 3 ポートフォリオとチューター制の充実を図り、多様な学生の背景に応じた個々の関わりと指導を実施する。

H28 年 4 月からカウンセラーを導入し、学生は適宜活用している。

准看護師合格 100%を維持、進学希望者専門課程への 100%合格、就職希望者の就職状況をみると、評価に値する結果がでている。

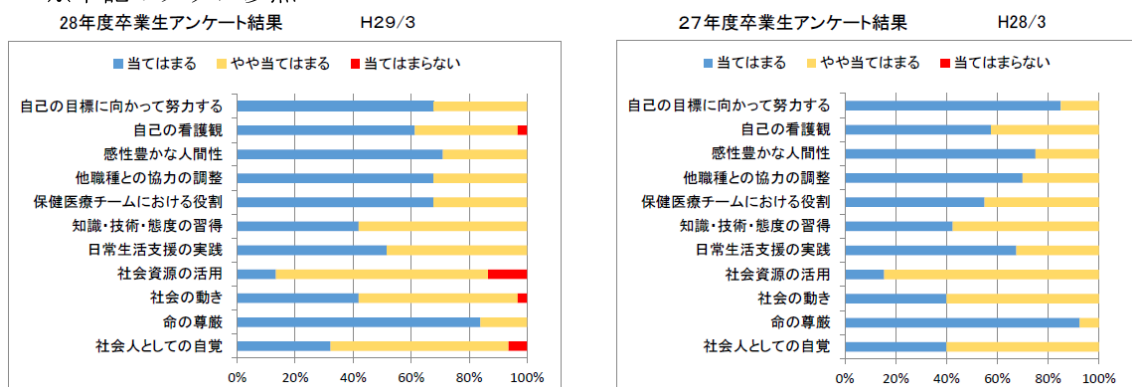
課題 4 両科合同学校見学会や社会人特別選抜入試（後期）を追加し、受験生を増やし質の高い入学生を確保する。

H28 年度は、看護科との合同学校見学会の開催、社会人入試を 1 回増やすことで対応したが、H29 年度生の受験者数は減少した。

課題 5 教育目標の振り返りを行う為に、27 年度から始めた卒業時点での到達度の調査を引き続き実施する。

「自己成長の基盤」「命の尊厳」「感性豊かな人間性」の項目については、到達度が高い。

※下記のグラフ参照



課題 6 業務改善を行い、看護教員として自らが質の向上に努めることができる環境づくりを行う。

次年度も引き続き、業務改善を行いながら、講義の準備時間の確保に努める。

平成29年度 重点課題（准看護科）

1. 多様な学生の背景に応じた個々への関わりと指導を実践する。
2. 学生の基礎看護技術の向上と‘考える力’の育成に努める。
3. 学生にわかりやすい授業を提供するため、授業準備時間を確保する。
4. 受験生を増やし、質の高い学生を確保するために、広報活動を強化する。

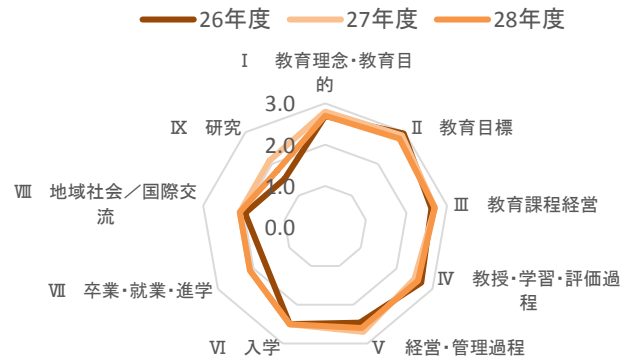
平成26・27・28年度 自己点検自己評価結果 看護科

〈評価基準〉 3:当てはまる 2:やや当てはまる 1:当てはまらない

26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
I 教育理念・教育目的	2.7	2.8	2.7
II 教育目標	3.0	2.9	2.8
III 教育課程経営	2.6	2.7	2.7
IV 教授・学習・評価過程	2.7	2.5	2.6
V 経営・管理過程	2.5	2.7	2.6
VI 入学	2.5	2.5	2.5
VII 卒業・就業・進学	1.7	2.1	2.1
VIII 地域社会／国際交流	2.0	2.1	2.1
IX 研究	1.5	2.1	1.8

看護科自己点検自己評価結果

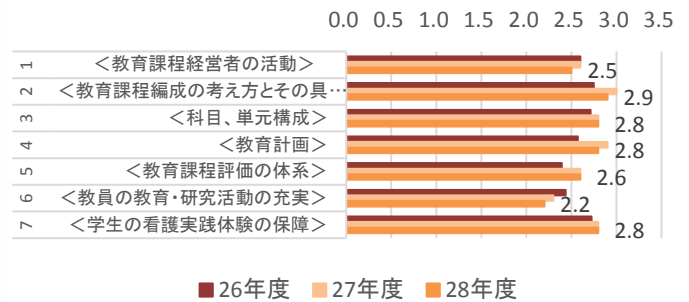


III 教育課程経営 26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.6	2.6	2.5
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.8	3.0	2.9
3 <科目、単元構成>	2.7	2.8	2.8
4 <教育計画>	2.6	2.9	2.8
5 <教育課程評価の体系>	2.4	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.4	2.3	2.2
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.7	2.8	2.8

平均 2.6 2.7 2.7

III 教育課程経営



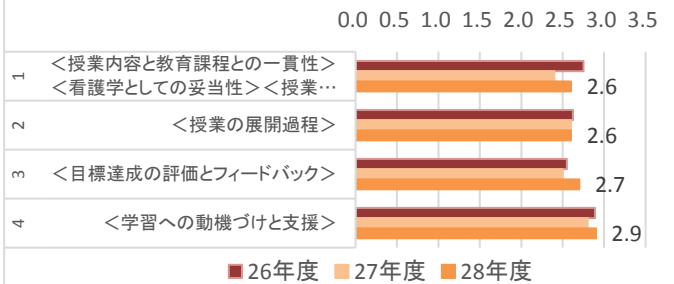
26年度 27年度 28年度

IV 教授・学習・評価過程 26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
1 <授業内容と教育課程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の連携と発展>	2.8	2.4	2.6
2 <授業の展開過程>	2.6	2.6	2.6
3 <目標達成の評価とフィードバック>	2.6	2.5	2.7
4 <学習への動機づけと支援>	2.9	2.8	2.9

平均 2.6 2.7 2.7

IV 教授・学習・評価過程



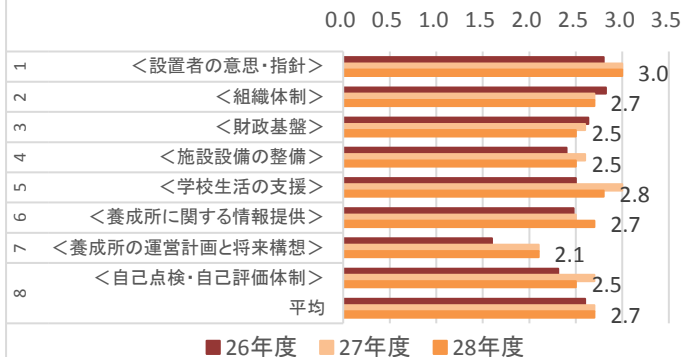
26年度 27年度 28年度

V 経営・管理過程 26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
1 <設置者の意思・指針>	2.8	3.0	3.0
2 <組織体制>	2.8	2.7	2.7
3 <財政基盤>	2.6	2.6	2.5
4 <施設設備の整備>	2.4	2.6	2.5
5 <学校生活の支援>	2.5	3.0	2.8
6 <養成所に関する情報提供>	2.5	2.5	2.7
7 <養成所の運営計画と将来構想>	1.6	2.1	2.1
8 <自己点検・自己評価体制>	2.3	2.7	2.5

平均 2.6 2.7 2.7

V 経営・管理過程



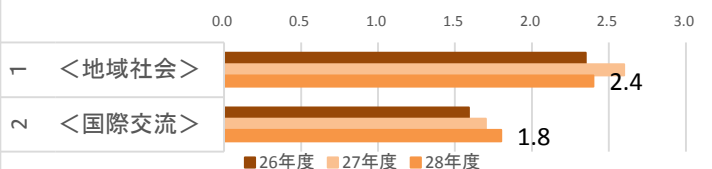
26年度 27年度 28年度

VIII 地域社会／国際交流 26年度 27年度 28年度

	26年度	27年度	28年度
1 <地域社会>	2.4	2.6	2.4
2 <国際交流>	1.6	1.7	1.8

平均 2.6 2.7 2.7

VIII 地域社会／国際交流



26年度 27年度 28年度

平成 28 年度の重点課題に対する評価 看護科

課題 1. 国家試験対策の充実を図り、第 106 回看護師国家試験に全員合格する。

平成 27 年度合格率は 95%で、平成 28 年度の重点課題として掲げたが、結果として不合格者を出し、合格率は 93%とさらに低下した。チューター毎に模擬試験に対する個別指導を実施してはいるが、年々国家試験の内容が難しくなっており、従来通りの対策では不十分だったと言える。更なる国家試験対策の強化が求められる。

課題 2. チューター制やプロジェクト学習の充実を図り、学生の「意思ある学び」を支援するための指導体制を確立する。

チューター制に関しては、徐々に学生や教員の中に定着してきている。プロジェクト学習に関するアンケート調査の結果では「自分の課題を見つけることができた」「自己の目標設定が明確になった」については約 70%の学生が「思う」と肯定的にとらえており、4段階評価において 2.8 の点数だった。「意志ある学びの理解」の項目においても、72%が理解できたとしており 2.8 であった。更に卒業時のカリキュラムに関するアンケート調査の結果では「個別相談、進路相談などのサポート体制」については、4段階評価において 2.8 から 3.0 へ、「学校職員は、近づきやすい存在か」の項目では、3.0 から 3.2 へと昨年より上昇した。

課題 3. 教員の教育力を高めるための「教育研究活動の充実」を目指し、更なる業務整理と時間の有効活用を行う。

以前に比べると、教員の実習指導に費やす時間が大幅に増えており、その分が全体的に時間のゆとりがなくなってきている。教育力を高めるための時間を確保するために、業務内容の見直しに取り組んだ。また学生の負担や教員の負担の軽減も含めて、実習や教科外活動など教育全体の見直しにも取り組み、学生が効率よく学習できるよう平成 29 年度の教育内容を変更した。

課題 4. 「分かりやすい授業」を目指し、学生の授業評価を有効活用する。

卒業時のカリキュラムに関するアンケート調査の結果では「分かりやすい授業が多い」については、4 段階評価において昨年 2.4 と低かったが、2.8 へと上昇した。専任教員や外部講師への授業評価を導入したことが要因と考えられる。今後はその結果を踏まえた活用が課題である。

課題 5. 八女筑後地域の期待と信頼に応えられるための人材育成と当医師会管内への就職率向上を図る

八女筑後管内の実習病院に就職した卒業生から、就職状況について説明を聞く機会として「卒業生との交流会」を実施し、3年目となる。直接卒業生から話を聞くことで、就職に対する意識付けや実習前の心構えにつながっていると考えられる。平成 28 年度の卒業生の就職状況は、実習病院をはじめ八女筑後管内へは、約 24%の卒業生が就職した。筑後ブロックへの就職を加えると、52.3%とこの地域の医療、看護力の向上に貢献できていると考えられる。

平成 29 年度の重点課題

1. 第 107 回看護師国家試験全員合格に向けて対策を強化する。
2. 学生の「意思ある学び」を教員間で再確認し、指導の統一を図り支援する。
3. 基礎看護技術に対して全教員で取り組み、指導力を強化する。
4. 教育力の向上に向けて授業準備の時間確保のために業務を整理する。
5. 優秀な学生を確保するために広報活動を強化する。